令和５年度　全国学力・学習状況調査結果（大崎市）について

令和5年9月　大崎市教育委員会

Ⅰ　調査の概要について

【調査目的】⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通して，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査日】　令和５年４月１８日（火）

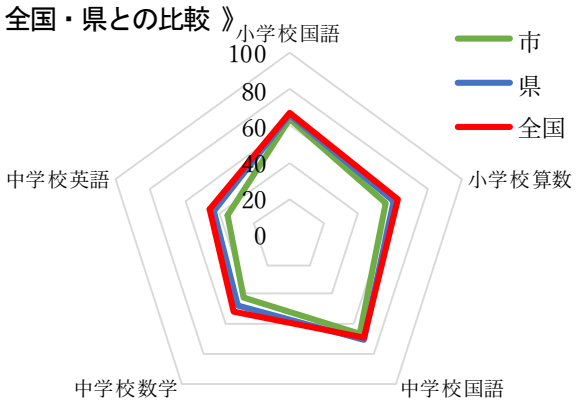
【調査対象・内容】　○小学校第６学年（国語・算数・質問紙）　○中学校第３学年（国語・数学・英語・質問紙）

Ⅱ　各教科の結果について

《 平均正答率 》

校種・学年	教科	問題数	大崎市	宮城県	全 国
小学校６年	国語	14	64	66	67
	算数	16	56	60	63
中学校３年	国語	15	66	70	70
	数学	15	42	48	51
	英語	17	35	44	46

《 全国・県との比較 》



小学校国語

○ 日常的に使う漢字を正しく書くことができる児童が多い。

○ 目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約することができる児童が多い。

● 図表やグラフなどを用いて，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られる。

中学校国語

○ 聞き取った内容を基に，目的に沿って自分の考えをまとめることができる生徒が多い。

○ 目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる生徒が多い。

● 文章の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えることに課題が見られる。

小学校算数

○ 伴って変わる二つの数量の関係が比例の関係かどうか理解している児童が多い。

○ 正方形の意味や性質，構成の仕方について理解している児童が多い。

● 問題を解決するために必要な方法を言葉と数を用いて記述することに課題が見られる。

● 百分率を用いた表し方や割合などを求めることに課題が見られる。

● 図形を構成する要素に着目し，基本図形の面積を求めることに課題がみられる。

中学校数学

○ 文字を用いた式について計算できる生徒が多い。

● データの分布の傾向を比較して捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。

● 図形の性質を考察する場面で，道筋を立てて考え，事柄が成り立つ理由を説明することに課題が見られる。

●累積度数や四分位範囲の意味を理解することに課題が見られる。

中学校英語

○ ある状況を描写する英語を聞き，その内容を最も適切に表している絵を選択できる生徒が多い。

● 未来表現の肯定文，疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことに課題が見られる。

Ⅲ　質問紙調査結果について

カッコ内は全国比（○：上回った　△：少し上回った　＝：同程度　▼：少し下回った　●：下回った）

【生活・家庭学習の習慣について】

児童生徒への質問	小学校：児童	中学校：生徒
朝食を毎朝食べている。	92.0（＝）	90.7（＝）
毎日，同じくらいの時刻に寝ている。	75.6（●）	78.7（＝）
毎日，同じくらいの時刻に起きている。	86.0（▼）	91.0（＝）
平日，学校の授業以外に１時間以上勉強する。	54.5（▼）	58.1（●）
家で自分で計画を立てて勉強している。	66.9（▼）	61.9（○）

・小学校は起床・就寝時間についてやや不規則な面が見られる。

・中学校は，ほぼ毎朝の生活習慣が確立している。

・小学校，中学校ともに，「平日の家庭学習の時間が１時間以上である」と回答した割合が，全国を下回った。

・中学校は「自分で計画を立てて勉強している」と回答した割合が全国を上回った。

【改善にむけて】

○ 家庭での過ごし方について，家庭と連携しながら指導を継続していく。

○ 授業と関連付けた家庭学習や宿題の取組を充実し，家庭学習の習慣を確立する。

○ 学習時間の確保のために家庭との連携を図りながら，メディアコントロールを推進する。

【自分・授業について】

児童生徒への質問	小学校：児童	中学校：生徒
自分には，よいところがあると思う。	80.7（＝）	74.6（●）
将来の夢や目標をもっている。	82.6（＝）	60.0（●）
学校に行くのは楽しい。	84.4（＝）	79.8（＝）
授業で自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表している。	59.3（▼）	58.7（▼）
授業で，各教科などで学んだことを生かしながら，自分の考えをまとめる活動を行っていた。	67.3（●）	70.2（＝）

・中学校は，「自分には，よいところがあると思う」と回答した割合が，全国を下回った。

・中学校は，「自分の将来について，夢や希望をもっている」と回答した割合が，全国を下回った。

・小学校，中学校ともに，「学校に行くのは楽しい」と回答した割合が，全国とほぼ同じ割合だった。

・小学校，中学校ともに，「授業において自分の考えを工夫し発表している」回答した割合が，全国をやや下回った。

・小学校，「授業において学んだことを生かして，自分の考えをまとめる活動を行った」と回答した割合が全国を下回った。

【改善にむけて】

○子どもの長所や頑張りなどを「認める」「ほめる」「励ます」教育を推進し，自己肯定感の醸成に努める。

○キャリア教育を充実させ，将来の職業や進路についての意識を高め，自分の興味や適正を踏まえた適切な選択ができるよう支援する。

○志教育の推進を継続し，自分の夢や目標に向かうためのよりよい生き方について主体的に求めていく姿を養う。

○「～おおさきスタンダード～みのり」に関する指導の定着を図るとともに，「まとめる」活動を取り入れるなど，授業改善に取り組む。

【ＩＣＴの活用について】

児童生徒への質問	小学校：児童	中学校：生徒
授業でPCやタブレットなどのＩＣＴ機器を週３回以上使用した。	46.0（●）	52.6（●）
平日，学校の授業以外でICT機器（タブレット・PC）を使って１時間以上勉強する。	18.6（＝）	19.1（○）

・授業でのＩＣＴ機器の利用頻度は全国を下回った。

・中学校は，学校以外でICT機器を利用して１時間以上勉強する生徒の割合が全国を上回った。

【改善にむけて】

○教職員及び児童生徒のＩＣＴ機器の活用スキルの更なる向上を図る。

○「一斉学習」「個別学習」「協働学習」それぞれの学習場面に合わせ，ICT機器を活用する場面を設定する。

Ⅳ　大崎市教育委員会の対応について

大崎市は令和４年度から全ての小・中・義務教育学校において，「学力向上マネジメントおおさき方式」の４つの柱を核に，基礎的・基本的な学習内容の定着と，思考力･判断力・表現力等の育成を目指した授業改善と児童生徒一人一人の実態に応じた指導を推進することにより，学力向上を目指している。

（1）学力向上４つの柱に関する取組

①　カリキュラムマネジメントの工夫

○　各学校が作成した「学力向上年間計画」を基に，学力向上のPDCAサイクルの循環促進する。
また，その取組をGoogle drive上で市内全ての学校で共有し，自校の取組に生かす。

②　授業改善

○　思考力，判断力，表現力などの能力を育成し，個々の生徒の特性に合った指導を実現するために，授業内容の改善を推進していく。また，児童生徒が自ら積極的に学ぶ，「学習者主体の学び」の授業づくりを通して，自立した学習者の育成に努める。この取組において，大崎市教育委員会は指導主事の訪問や助言を通じて以下の支援を行う。

○　授業の始めに「目標（めあて・ねらい）」を示す活動を工夫することにより，学習意欲を高めたり，本時の見通しをもたせる。

○　授業の最後に「振り返り」や「適用問題」の時間を工夫する。「ねらい」を踏まえた振り返り活動を通して，何ができるようになったのか，何が分かったのかを児童生徒に具体的に実感させる。

○　「おおさきスタンダードみのり」や「授業評価シート」を活用し，県教委が推進する「子供の学びを支援する５つの提言」を意識した取組がなされるよう推進する。

③　集団づくり

○　総合質問紙調査「i-check」，生活アンケート等の活用による児童生徒の実態把握を生かした，共に認め合い，学び合う集団づくりの推進していく。

④　小中連携

○　指導主事訪問等での授業を中学校区内の学校同士で参観し合ったり，合同での授業研究会などを開催したりする取組を推奨し，スムーズな学びの接続を図るようにする。

○　市主催研修会を通して，中学校区内の小・中学校が連携し，児童・生徒の実態について共有し，各校の学力向上につながる取組を行う。

（2）各種調査結果の活用

○　全国学力・学習状況調査の算数・数学において，早期の自校採点を行い，分析を行うことで，日々の授業改善に取り組むよう指導・助言する。

○　市教委作成の「授業改善シート」や「ワンランクアップシート」を基に調査結果の分析と今後の改善計画を立案させ，教職員の共通理解のもとでの指導改善を促す。

（3）その他の取組

○　県学力向上マネジメントアドバイザーによる，学校個別訪問，中学校区訪問（年５回）に同行し，各校の取組状況の把握と指導助言を行う。

○　生徒会やPTAの協力のもと，児童生徒が目標をもってメディアコントロールに取り組み，家庭学習が習慣化できるよう指導する。